

潮来市

地域おこし協力隊通信

-第8回-

潮来市地域おこし協力隊

地域おこし協力隊が普段の生活で感じたことや、取り組んできたことについてお届けします。

今月のテーマ

こどもジャーナリスト
育成事業

こどもジャーナリスト育成事業って？

潮来市で精力的に活動している人（キーマン）を地元の小学生が取材し、ラジオ番組として発表するもの。今年度は5月から大生原小学校の5、6年生を対象に実施されました。



佐藤 森山

地域への誇りを高める

取材テーマは「人の魅力を発信しよう」。どんな質問をしてどんなふうに紹介すればその人の魅力が伝わるか精査して、子供たち自ら台本作りに取り組みました。キーマン取材を通して潮来の知識を深め、地域への誇りを高めることを目指しています。

新たなチャレンジへ！

11月20日（水）に発表会が行われ、事業は一段落しました。ここから新たな興味を持ち、自主的に調べ学習をするなど、新しいチャレンジの連鎖がうまれることを期待しています。

「4年生も応援にかけつけてくれました！」



「こどもジャーナリスト育成事業」については、毎月発行の「協力隊しんぶん」でも取り上げています。詳しくは移住定住公式ホームページ「潮来暮らし」をご覧ください。<http://itakogurashi.jp/>

「ええ、どうやって...？」
にこにこ笑顔だったこどもたちの表情が一瞬にして曇りました。「最終的にラジオ番組を作って発表します」と初めての授業で伝えたとときのこどもたちの不安な表情は今でも鮮明に覚えています。
今年の5月から始まった「こどもジャーナリスト育成事業」は前例がないため、最善の方法は何かを毎回模索しながら進んでいきました。
ラジオ局での勤務経験はありませんが、小学校での教育経験はありませぬ。ラジオ番組の制作までたどり着けるだろうか...？そもそもこどもたちに教えることなんてできるのだろうか...？そんな不安を吹き飛ばしてくれたのは、いつも元氣



2018年8月から、日上市出身の森山と札幌市出身の佐藤の2名で活動。SNSや「協力隊しんぶん」にて情報発信をおこなう。

潮来市地域おこし協力隊

「こどもジャーナリスト育成事業」は前例がないため、最善の方法は何かを毎回模索しながら進んでいきました。
ラジオ局での勤務経験はありませんが、小学校での教育経験はありませぬ。ラジオ番組の制作までたどり着けるだろうか...？そもそもこどもたちに教えることなんてできるのだろうか...？そんな不安を吹き飛ばしてくれたのは、いつも元氣

よくあいさつをしてくれるこどもたちでした。
初めは不安な表情を見せていた彼らも、取材の仕方や伝える方法を学ぶうちにキラキラと自信に満ちた顔になりました。
言葉のチョイスはこどもたちにすべて任せました。「こんな風に表現したいんだけど、どんな言葉を使えばいいだろう？」台本作りの段階ではそんな議論が活発に繰り広げられました。
思い通りにインタビューができなかったグループもあったようですが、発表会ではそんなことを感じさせない堂々とした番組を披露してくれました。
授業最終日、こどもたちがサブライズで「感謝の会」を開いてくれました。黒板には可愛いイラストと「ありがとう」の文字。会の最後にはこどもたちから色紙のプレゼントもありました。
この事業をサポートしてくれた多くの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。
将来、「真のジャーナリスト」が潮来から生まれることを期待しています！